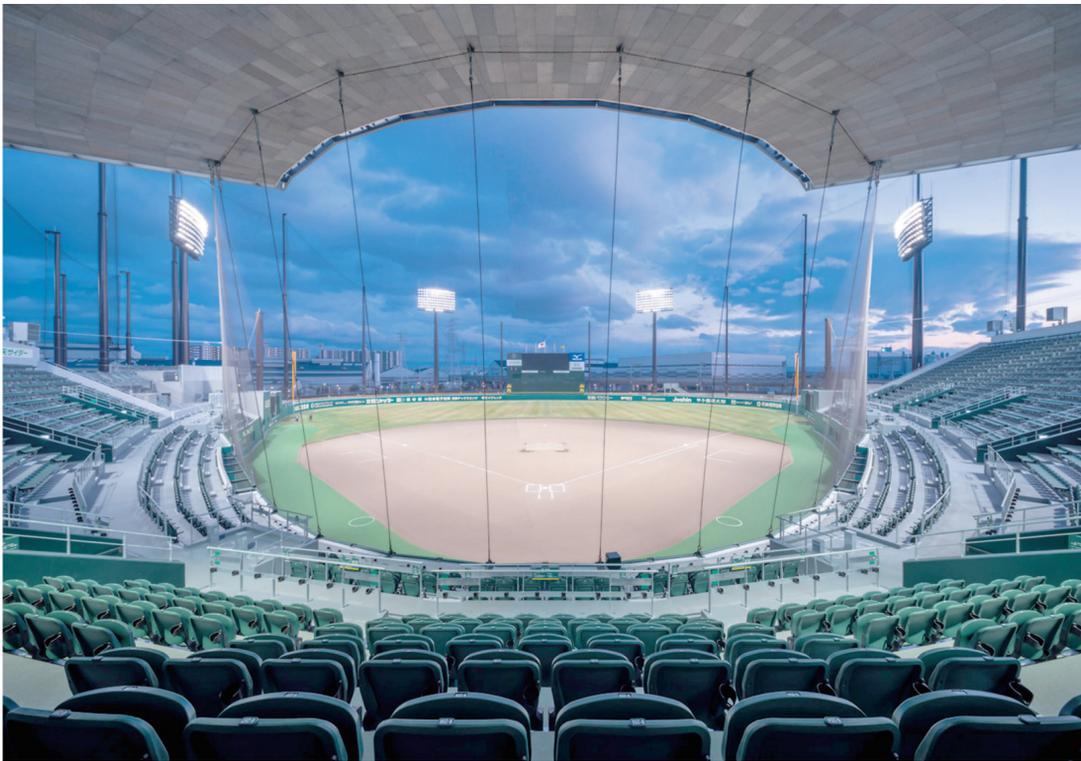




ゼロカーボンベースボールパーク

ZERO CARBON BASEBALL PARK

完成



ゼロカーボンナイターの開催に取り組む



メインゲート

阪神タイガース二軍施設移転計画(小田南公園再整備事業)事業概要

阪神電気鉄道と阪神タイガース、尼崎市は、阪神タイガースファーム施設(西宮市鳴尾浜)の移転を計画。移転先として、2023年5月、尼崎市の小田南公園を「ゼロカーボンベースボールパーク」として整備する工事に着手した。熊谷組と日鉄鋼板がパートナーとして参画し、脱炭素化の知見を生かした施工や新素材「SGL」の提供で協力している。

阪神電気鉄道と尼崎市は、環境省が実施した第1回脱炭素先行地域の公募に「阪神大物地域ゼロカーボンベースボールパーク整備計画～地域課題解決!官民連携事業～」として本計画を共同提案。プロ野球球団と連携したスポーツによるまちづくり・観光振興・地域活性化と脱炭素の両立を目指した提案として、実現可能性やアナウンス効果の高さが評価を受け、事業選定に至った。

ゼロカーボンに向けた取り組みでは、ナイター試合も開催する野球場で想定される年間電力使用量の80%強に相当する電力を太陽光発電と蓄電池でまかない、不足分は尼崎市のクリーンセンターの廃棄物発電を活用する。また、省エネの徹底、ペットボトル・プラスチックカップの回収・リサイクルなどの環境に配慮した取り組みも行き、脱炭素社会・循環型社会の実現に貢献する。

阪神電気鉄道が兵庫県尼崎市で整備を進めてきた阪神タイガースの本拠地「ゼロカーボンベースボールパーク」が完成を迎えた。新たな重球場「日鉄鋼板SGLスタジアム」や選手寮・室内練習場、一般用野球場などで構成。市の新たなランドマークとなる環境に優しい野球文化の発信拠点が誕生した。

環境貢献で野球文化を発信

設計コンセプト

ゼロカーボンベースボールパークについて

このゼロカーボンベースボールパークは尼崎市の小田南公園に阪神タイガースの二軍施設(日鉄鋼板SGLスタジアム尼崎(以下SGLスタジアム)、選手寮兼クラブハウス、室内練習場)に加えて既存公園にもあった市民球場を融合させるプロジェクトである。

新二軍施設の大きなコンセプトはチーム力の強化とタイガースブランドの発信である。公園内に建設するにあたって市民の方々に対してタイガースを日常化し、タイガースブランドを発信しながらも公園としての機能も充実していくことは特に注力した。さらに地域をリードする環境配慮として、全国初のZEB認証を受けた球場施設となっており、ここから『ゼロカーボンベースボールパーク』と銘打っている。

計画の特徴として、公園のメイン広場を丘のようにしてSGLスタジアムとつないでおり、公園利用者が広場でくつろいだり遊ぶ様子が球場と一体となった風景を創出する。また、SGLスタジアムに関して、外壁には一部黄色と黒色にした金属のルーバーを配置し、縦縞になぞらえて阪神らしさを演出した。二軍球場でホームチームのファンがほとんどだということもあり、客席をタイガースのホームの一塁側に多く設けているのも球場の大きな特徴だ。室内練習場は甲子園の1.5倍となっており、打撃練習場等の設備も新設され、チーム力の強化の部分で、非常に充実した施設になっている。

都市部からも、駅からもとても近い施設になるので、たくさんの方々に来て頂きたいのはもちろん、阪神電車を利用する方にも常に目に入る施設になるため、この『ゼロカーボンベースボールパーク』が沿線の方々のご記憶の中の情景に残ってもらえれば、設計者冥利に尽きる。

久米設計大阪支社 上席主査 佐藤行彦

地域をリードする環境配慮拠点に



上空から



選手寮兼クラブハウス「虎風荘」



室内練習場

建設場所は阪神電気鉄道大物駅の東側に位置する小田南公園。阪神本線となんば線に挟まれた第1工区に「日鉄鋼板SGLスタジアム」と、内野練習場、小田南公園野球場、公園広場を計画。なんば線南側の第2工区に室内練習場と選手寮「虎風荘」を配置した。タイナミックな公園再整備プロジェクトには熊谷組の建築部門と土木部門が総力を挙げて施工。現場は約40人の職員のほか最大時約400人の作業員が入場した。遠藤孝治工事所長は「スケールの大きな敷地で複数の施設を同時進行で施工するため、入念な工事管理が求められた」と振り返る。

現場付近は狭い道路が多く、阪神本線高架沿いの側道をメインの搬入ルートに使用。大型車両の通行規制があったため、事前に許可を得た上で搬入出を行った。近隣住民との間で大型車両や通勤車両の通行時間帯などルールを取り決め、作業員に周知徹底。安全パトロールで第三者災害の防止に努めた。

建設現場は阪神電気鉄道大物駅の東側に位置する小田南公園。阪神本線となんば線に挟まれた第1工区に「日鉄鋼板SGLスタジアム」と、内野練習場、小田南公園野球場、公園広場を計画。なんば線南側の第2工区に室内練習場と選手寮「虎風荘」を配置した。タイナミックな公園再整備プロジェクトには熊谷組の建築部門と土木部門が総力を挙げて施工。現場は約40人の職員のほか最大時約400人の作業員が入場した。遠藤孝治工事所長は「スケールの大きな敷地で複数の施設を同時進行で施工するため、入念な工事管理が求められた」と振り返る。

施工のポイント

先組みとPCaの採用で効率施工実践

工事概要
工事名: 阪神タイガース二軍施設移転計画新築工事
所在地: 兵庫県尼崎市杭瀬南新町3-15-10他
発注者: 阪神電気鉄道株式会社
設計: 株式会社久米設計
施工: 株式会社熊谷組 関西支店
工期: 2023年3月1日～2025年1月31日
構造・規模: 【第一工区】タイガース野球場RC造一部S造地上3階延床面積10,918㎡
【第二工区】室内練習場S造地上1階延床面積6,168㎡、選手寮兼クラブハウスS造地上3階延床面積3,704㎡

現場付近は狭い道路が多く、阪神本線高架沿いの側道をメインの搬入ルートに使用。大型車両の通行規制があったため、事前に許可を得た上で搬入出を行った。近隣住民との間で大型車両や通勤車両の通行時間帯などルールを取り決め、作業員に周知徹底。安全パトロールで第三者災害の防止に努めた。

現場内は円滑な情報共有を図るため、ビジネス現場のコミュニケーションツール「LINE WORKS(ラインワークス)」を活用。職員と職長会でトクグループを作成し、臨機応変に対応できるよう迅速な意思伝達に努めた。ゼロカーボンの取り組みでは、選手寮屋上などに太陽光パネルを設置。自家発電で年間電力使用量の約80%を賄い、不足分は尼崎市のクリーンセンターの廃棄物発電を活用する。

画像提供: 阪神電気鉄道、熊谷組 撮影: 株式会社プライス

建築工事 熊谷組 関西支店 大阪市西区靱本町1-11-7 電話 06-6225-2226		電気設備工事 中央電設株式会社 大阪市福島区海老江1-1-31 電話 06-6453-8720		機械設備工事 株式会社 圓奈 神戸市中央区脇浜町2-10-1 電話 078-232-0707					
耐火被覆工事	ISエンジニアリング株式会社	鉄骨工事	株式会社 カナックス	金属工事	システム建材株式会社	各種足場工事	株式会社 辻組	鉄骨工事	富士金属工業株式会社
金属工事	エムティ・メタリックス株式会社	内装工事	クリスタル創建株式会社	ソフトラバーフェンス工事	太陽工業株式会社	左官工事	株式会社 浪花組	搬送機設備工事	フジテック株式会社
土工	岡田工業株式会社	雑工事	コクヨ株式会社	照明柱・防球ネット工事	大日エンジニアリング株式会社	外構工事	株式会社 NIPPO	外構工事	ミヤビック株式会社
PCa工事	オリエンタル白石株式会社	金属製建具工事	三和シャッター工業株式会社	塗装工事	竹林塗装工業株式会社	杭工事	日本コンクリート工業株式会社	型枠工事	安武建設株式会社
高・土工	片山建設株式会社	鉄筋工事	三和鉄筋工事株式会社	防水工事	棚田建材株式会社	グラウンド工事	阪神園芸株式会社	土工	柳興業株式会社